

# 栄養剤注入方法の再検討により胃瘻トラブルが軽減した事例

## ～水を先に注入する方法に変更して～

3-5 病棟 森藤あゆみ 繁田 敏恵  
栄養課 菊池しおり

### I. はじめに

今回胃瘻から栄養剤が漏れる事によりスキントラブルが発生した患者に対し、NST (Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム) と連携し支援していった結果リークを軽減することができた。その方法として、従来病棟で行っていた栄養剤注入後に白湯を注入する方法から、水を先に注入後、半固形栄養剤を注入するという順番へ変更したことでリークを軽減することができた。

### II. 事例紹介: 70歳代 女性 夫と二人暮らし

#### 1. 現病歴: 20XX-6年 脳梗塞

20XX-4年 脳梗塞再発 胃瘻造設

2. 入院までの経過: 夫の介護を受け在宅療養をしていた。20XX年5月頃より胃瘻からのリークが出現。リークが続き、夫は自己判断で液体栄養剤の量を少なくしたため低栄養状態になった。他施設で胃瘻のサイズアップを行ったが漏れは改善なく、入院時には胃瘻周囲に潰瘍が形成していた。

### III. 倫理的配慮

対象者は研究同意判断能力に問題があったため、対象者の夫へ研究目的、プライバシーの保護と匿名性の確保を行うことを説明し同意を得た。

### IV. 看護の実際

1. 経腸栄養実施時は右側臥位にする
2. 胃瘻部にアルファガーゼを巻く
3. 注入前にシリンジで胃内容物を引いて確認
4. 白湯100mlをシリンジで注入 (増粘剤なし)
5. 栄養剤100mlに対し小さじ1杯 (5g) 増粘剤を混ぜ15分置く
6. 白湯注入30分後に栄養剤をシリンジで注入

### V. 考 察

瘻孔周囲へのリークなどの皮膚症状は、「液体栄養剤に粘性がなく流動性が高いことにより、生理的な胃内での貯留、排泄運動や消化吸収が阻害されることにより生じる。」<sup>1)</sup>と述べられているように、自宅での経過からA氏のリークも液体栄養剤の注入が一因といえた。また、「栄養剤と水をそれぞれの空の胃の中に入れて、さらに空になるまでどれぐらいの時間がかかるのかをエコーで見ながら測定したところ、栄養剤 (1ml/1kcalの標準的な濃厚流動食) は15分、水は60mlで7分かかった。」<sup>2)</sup>というデータから、栄養剤注入後に白湯を入れることにより、胃の許容量を超え、胃瘻周囲からリークしてしまったといえる。入院後は半固形栄養剤へ変更し、早く通過する水を先に注入したことで、胃に栄養剤が入るスペースができリークを改善することができた。

入院早期からNSTと連携し、在宅を視野に入れ栄養剤の変更・管理を実施していった結果、リークの改善につながった。

### VI. 結 論

胃瘻からの栄養剤の注入は、白湯を先に入れ、次に半固形栄養剤を入れたほうがリークは軽減する。

#### 引用・参考文献

- 1) 合田文則. 第26回日本静脈経腸栄養学会イブニングセミナー 液体栄養剤症候群と半固形栄養材の進歩. ナーシング2011; 31(6): 149-152.
- 2) 宮澤靖. 現場発!臨床栄養管理 すぐに使える経験知 知らないといけない落とし穴. 東京: 日総研; 2010. P.122.